

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

林業の低コスト化を推進

【森林整備課】

我が国の森林面積は国土面積の約3分の2にあたる2,505万haであり、このうち、約4割に相当する1,020万haが人工林です。現在、人工林はその半数が主伐期※である50年生を超え、本格的な利用期を迎えている状況にあります。

このように充実した人工林資源を、「伐って、使って、植える」という形で循環利用をさせていくためには、**林業の低コスト化を推進**することが重要となっています。

近畿中国森林管理局では林業の低コスト化に向け下図の①から⑦について取り組んでおり、この成果は国有林のフィールドを活用しながら、地域への普及にも努めています。

① 素材生産と造林の一貫作業

- 全木での搬出による地拵※の省略（枝葉が付いた状態で搬出することにより林地に枝葉が散乱しないため地拵が省略できます）。
- 伐採直後のコンテナ苗の植付により作業の効率化が図られます。

② コンテナ苗の使用

- 専用の器具で植え付けるため鋤を使用するの植付より工期が改善されます。
- コンテナ苗のため植栽時期が拡大し、苗木の活着もよいとの結果が出ています。



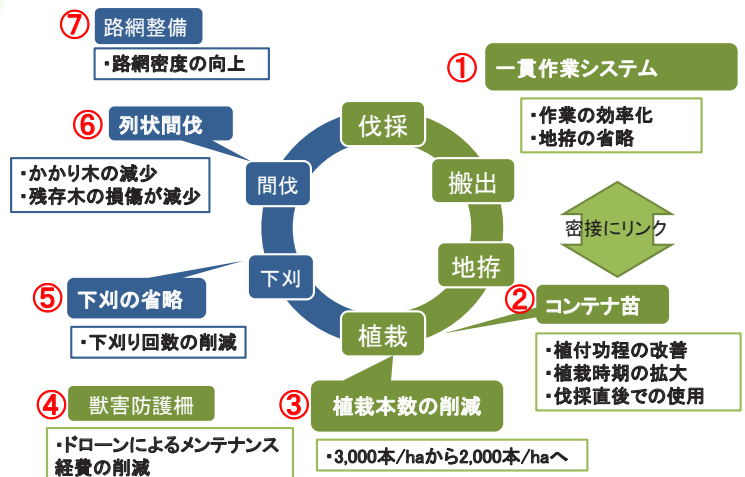
コンテナ苗



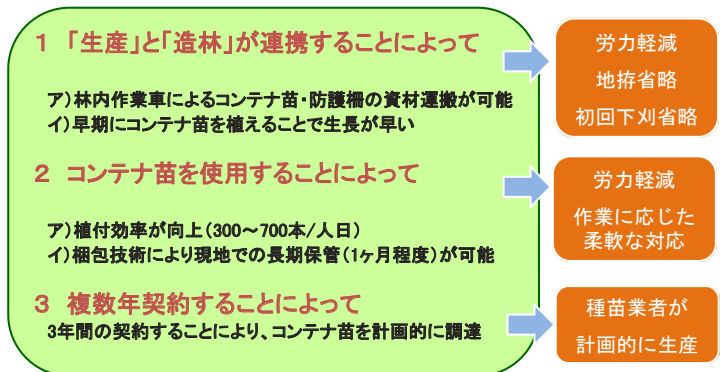
植栽器による植付

※ P5 参照

林業の低コスト化に向けた戦略



一貫作業システムによるメリット



③ 植栽本数の縮減

- 従来、植栽本数を3,000本/haから、2,000本/haにすることで、苗木代、植付経費を削減するとともに、間伐等その後の保育コストの低減を図ります。

④ 獣害防護柵設置コストの縮減

- シカによる造林木の食害を防ぐため、新植箇所では植栽木を保護するため防護柵を設置していますが、設置コストを縮減するため、柵の支柱として周囲の立木を使用することにより経費の削減に取り組んでいます。また、ドローンを活用した防護柵の点検を行いメンテナンス経費の削減を行っています。

⑤ 下刈の省力化の推進

- 通常、植栽後5年にわたり行う下刈は、現地の雑草木の繁茂状況を確認しながら、下刈の省略や刈り払い方法（全刈、筋刈）の見直しなど、下刈の省力化に向けて取り組んでいます。

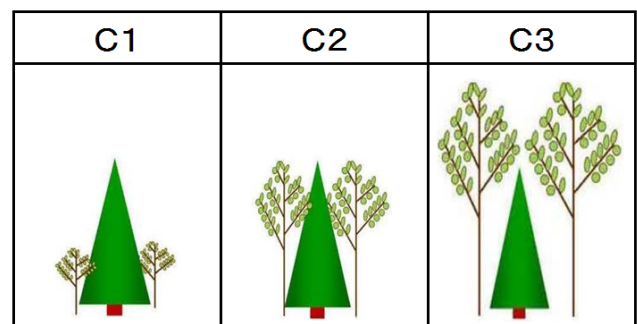
令和元年度は下刈対象面積の60%を省略する予定です。

⑥ 列状間伐の推進

- 列状間伐は一定の間隔で直線的に間伐木を選定し伐採する方法です。近畿中国森林管理局での搬出間伐は100%列状間伐で実施しています。列状間伐のメリットとして①選木の手間が省ける②伐採・集材が容易である③多くの労働災害の原因となる「かかり木※」が発生しにくい④残存木の損傷が少ないなどがあります。

⑦ 丈夫で効果的な路網整備

- 森林整備や木材生産の低コスト化、生産性の向上及び木材の利用を推進するため、地形・地質を考慮し、作業システムにも配慮した、丈夫で簡易な路網の開設を推進し、路網密度※の向上を図っています。



下刈省略基準図

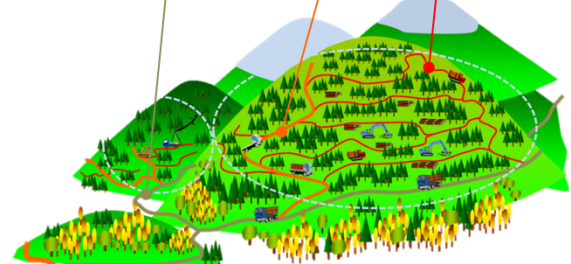
C1：樹木の梢端＞雑草木【下刈省略】

C2：樹木の梢端＝雑草木【下刈省略を検討】

C3：樹木＜雑草木【下刈実施】



列状間伐の状況



全国初の取組 林業大学校等と意見情報交換会

【企画調整課】

我が国の森林資源は、戦後に植林されたスギ・ヒノキ人工林を中心に利用期を迎え、この森林資源を「伐って、使って、植える」という形で循環利用を進める時代が到来しています。このことから、木材利用を推し進め、林業の成長産業化を実現させていくことが重要となります。

その一方で、林業従事者数は減少の一途をたどっています。そこで、林業従事者の育成を図り、雇用を確保していくため、近畿中国森林管理局管内においても、各府県に林業大学校等の担い手育成機関が相次いで誕生し、今年度には新たに3校が開講しました。

近畿中国森林管理局では、これまでも管内の林業大学校等に対して、講師派遣や国有林のフィールド提供といった連携・協力を行ってきたところですが、これらの取組をさらに前進させ、水平連携の体制を強化し、担い手

近畿中国森林管理局管内の林業大学校等一覧

| 自治体名 | 学校名称（設立年月） |
|------------|---------------------------|
| 福井県 | ふくい林業カレッジ（H28.5） |
| 三重県 | みえ森林・林業アカデミー（H31.4） |
| 滋賀県 | 滋賀もりづくりアカデミー（R元.6） |
| 京都府 | 京都府立林業大学校（H24.4） |
| 兵庫県 | 兵庫県立森林大学校（H29.4） |
| 奈良県 | （仮称）奈良県フォレスト・アカデミー（開講準備中） |
| 和歌山県 | 和歌山県農林大学校 林業研修部（H29.4） |
| 鳥取県 日南町 | にちなん中国山地林業アカデミー（H31.4） |
| 島根県 | 島根県立農林大学校 林業科（S54） |

育成を支援するため、近畿中国森林管理局が主催し、林業大学校等や府県関係者による意見・情報交換会を6月10日（月）に開催しました。なお、管内の林業大学校等が一堂に会し、森林管理局と意見・情報交換を行うのは、全国で初めての取組となります。



学校運営について発言される築山校長
（兵庫県立森林大学校）

意見交換では、学生募集について、「人材の取り合いではなく、良いライバル関係を築いていきたい」とのコメントがあり、当局の展示ギャラリー（森林のギャラリー）を利用して学校案内を行うなどの連携方策を今後検討していくこととしました。

また、会議の最後には、「近畿中国森林管理局管内林業大学校等協議会」の設立を決定し、年1回程度で意見交換会を継続して開催し、林業の担い手育成に関して連携を推進してまいります。



意見・情報交換会の様子

鳥取 大山小学生が 育てた松の苗木を植樹

【鳥取森林管理署】

6月18日（火）、鳥取県西伯郡大山町の大山国有林において、大山小学校の5、6年生児童26名が、二代目大山並木松の植樹を行いました。

大山並木松（クロマツ）は、約400年前の江戸時代に、大山寺^{ちゅうこうのそ}中興の祖である^{ごうえんそうしょう}豪円僧正が、参詣の道しるべとして、山奉行に植えさせたとされ、昭和52年に大山町の文化財に指定されました。指定時には65本ありましたが、松食い虫被害や高齢化のため枯損し、現在では21本まで減少しています。

この大山並木松を将来に残そうと、同小学校は、授業の一環として二代目大山並木松の育成を思い立ち、当署並びに国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター関西育種場の3者が協力して取り組むこととしました。

この取組は、平成28年2月（現5、6年生が1、2年生の時）に始まり、この時に児童が大山並木松の種を鉢に蒔き、30年2月には、鉢で成長した苗を、児童が一人ずつポットに植え替え、その後現在まで関西育種場で植樹が可能になるまで育成してきました。



この松の苗を植えます

この度、このポットの苗木を当署職員の指導の下、児童が一人ずつクワやスコップで穴を掘り、支柱を添えて丁寧に植樹しました。



元気に育ってね！

児童からは、「ポットに植え替えた自分の苗木が成長していたのでうれしかった。スコップは重かったけど、一生懸命穴を掘った。植えた苗を通る人に見てほしい」、「自分の植えた苗がどんどん伸びて大きくなってほしい、時々家族と見に来たい」と感想がありました。

天候に恵まれ、児童達の笑顔があふれる楽しい植樹行事となりました。



植樹を終え、みんなで記念撮影



中学生の職場体験学習

【広島森林管理署】

6月20日（木）、21日（金）の両日、広島市立^{みどりまち}翠町中学校3年生2名が職場体験学習のため広島森林管理署を訪れてくれました。

1日目は、林野庁の役割や当署の概要説明の後、高松山国有林へ移動し、平成26年の広島豪雨災害に係る災害復旧事業地において、治山事業の説明や治山施設を見学しました。

その後、森林における保育事業について学びとともに、間伐体験を行いました。

2日目は、保安林制度について学び、宇品山国有林に移動し植物観察を行った後、測量実習を行いました。実習後は署へ戻り、測量成果に基づき製図を行い、実習成果を確認しました。



治山事業について説明を受けました

生徒のみなさんは、野外での慣れない作業や初めて使う道具での体験に苦労しながらも真剣に取り組み、「木を伐るのは大変」「植物の種類が多さ、実際の木の高さや太さに驚いた」「災害復旧（治山）施設の役割や大切さが分かった」などの感想をいただきました。



測量実習の様子

職場体験学習受け入れは平成28年度から始まり、今回で4年目となります。これにより、林野庁業務の一端を知っていただき、少しでも森林の重要性などを理解していただけたと感じるとともに、今後とも当署の職場体験学習受け入れについては継続していきたいと考えます。



測量データを基に図面を作成

※**主伐期**とは、更新（伐採跡地（伐採により生じた無立木地）が、再び立木地となること）を伴う伐採の時期。

※**地拵**とは、木を伐ったあとは枝や葉などが散乱しているため邪魔になる枝や葉を整理し、苗木を植えるための準備をする作業。

※**かかり木**とは、伐採した木が倒れずに、隣の木などに引っかかってしまうこと。

※**路網密度**とは、ヘクタール当たりの林道や作業道の距離。

国有林をクリーンに！

【広島北部森林管理署】

広島北部森林管理署では、毎年地元自治体等と連携し国有林野内にある不法投棄の清掃活動を実施しています。

今年度は、6月25日（火）に広島県安芸高田市に所在する安瀬平山^{あせひらやま}国有林で安芸高田市と共催による、「安瀬平山国有林クリーン活動」を実施しました。

当日は、安芸高田市農林水産課職員をはじめ、森林ボランティア団体のびほく・森サポーターズや公募による参加者に当署職員を加えた総勢29名が約1時間の作業を行いました。



暑い中での回収作業の様子

作業は、炎天下の中で適宜休憩を取りながら、空き缶や弁当がらなどの家庭ゴミ、自転車やタイヤなどの大型ゴミ、合わせて約4トン回収しました。

回収したゴミは、安芸高田市の処理施設へ持ち込み、処理していただきました。



林内に投棄されたゴミ



ゴミの山 タイヤ、自転車、室外機などなど

広島北部森林管理署は、今後も地元自治体や地域の方々と連携しながら、不法投棄の撲滅に向けて取り組んでいきます。



暑い中お疲れ様でした！きれいになりましたね



お知らせ

近畿中国森林管理局 官庁訪問のご案内

対象者

- ・2019年度国家公務員採用一般職試験（大卒程度）の「行政」区分一次合格者
- ・平成29、30年度国家公務員採用一般職試験（大卒程度）の「行政」区分合格者

場所

- ・近畿中国森林管理局または林野庁本庁（どちらを訪問しても選考に影響ありません）

日程

- ・7月11日（木）、7月16日（火）
8月5日（月）、8月6日（火）

詳しくは 近畿中国森林管理局ホームページの注目情報をご覧ください。



森林のギャラリー（局庁舎1階）

山の日（8月11日）に向けて、都市部の方々が山に親しみ、山や森林がもたらす様々な恩恵に関心を持っていただくきっかけとするための「山の日PR展」を開催します。

展示内容

富士山にちなんだ観光PR
日本美しい森 お薦め国有林など

展示期間

7月7日（日）から8月21日（水）

開館時間

月曜から金曜日まで（土日、休日は除く）
9時00分～17時00分



我が署のスタッフ

三重森林管理署

まえだありさ
前田有紗

（平成30年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は?】

今年度から業務グループ配属となり、現在は造林（大まかに言えば、苗木を植え、成林するまでの世話をすること）や、官用車の管理に関する仕事をしています。具体的に言うと、今度植栽する予定箇所の測量をしたり、マツクイムシやカシノナガキクイムシの被害木を調べたり、森林官から連絡があった車の修繕に関する事務処理をしたり。慣れないことも多々ありますが、植えられた木が成長する姿を夢見ながら頑張っています。

【職場の雰囲気は?】

優しい方々に囲まれたこの職場、非常に働きやすい環境です。分からないことを聞いて、教えて下さるのは勿論、若手（三重署は入庁5年目以内7人）に対し、OJT（職場内研修・教育）の実施もあります。また、年休の取得がしやすい雰囲気でもあります。

【林野庁の魅力とは?】

「現場（山）へ行けること」や「優しい人が多いこと」も、勿論林野庁の魅力の一つですが、様々な仕事を行うことで、様々な視点から山をみられる、というのも林野庁の魅力です。山に求められる役割は、時代や土地によって変化しますが、様々な視点をもって、その地点にあった山づくりをしていきたいです。



中学生の職場体験でマツクイムシ防除事業について説明する筆者（右）

シリーズ 『国有林 最前線!』

林業の成長産業化に向けて

総務企画部 企画調整課

企画調整課は、林政推進、企画調整、監査、情報管理の4つの係があり、予算調整、自然災害対応、監査、情報セキュリティ等、局内の幅広い業務を行っています。その中から、今回は2つの取組を御紹介します。1つ目は、地域のニーズを把握し、課題解決を行うための「地域林政連絡会議」です。国有林野事業には、民有林に対する指導やサポートなど、我が国の林業成長産業化に貢献することが求められています。民有林行政においては、今年度より「新たな森林管理制度」と「森林環境譲与税」がスタートしました。このような中、林野行政に係る地域が抱えている課題を把握するとともに、その課題解決を図るため、「地域林政連絡会議」を通じて各府県との連携を推進しています。

2つ目は、一般の方からの意見に耳を傾け、国有林野行政に反映させる「国有林モニター事業」です。この事業は、平成16年度から開始し、今年度も63名の方に国有林モニターをお願いしています。広報誌等の内容や日頃から感じていることなど、森林・林業に関する様々な御意見をいただいています。また、国有林の施業箇所への御案内や国有林モニター会議を実施し、国有林や森林・林業への理解を深めていただくとともに、貴重な御意見を伺うこととしています。

このように、企画調整課では、各方面からいただいた情報を森林管理局の各種取組に活かすべく、関係各課と連携して業務を行っています。



地域林政連絡会議

石川森林管理署 白峰森林事務所 森林官 熊崎 康夫

石川県最高峰（標高2,702m）の白山^{はくさん}は、富士山、立山と並び日本3名山の一つにたたえられています。その大部分が当事務所管轄国有林であり、その約75%が白山国立公園に指定され、ブナ林などの天然林が多くを占めております。白山の麓に位置する白峰は、江戸時代に天領として栄え、山村でありながら建物が密集している町場のような景観を形成しており、重要伝統的建造物保存地区に選定されています。このような豊かな自然と伝統的な町中に私の勤務する白峰森林事務所があります。

主な業務は、管内の巡視です。例年8月初旬には1泊2日の行程で白山山頂まで登り、貸付地や林分状況などの国有林内の巡視を行います。標高差約1,500mを夏場の暑い時期に登山するので、それなりに体力を要しますが、美しい高山植物や山々の景色を見ると、疲れも吹き飛びます。今年も白山山頂まで登り、国有林内の登山道（釈迦新道）を降りるコースを計画しています。

また、雪に閉ざされた冬の白峰では「雪だるま祭り」が毎年1月中旬に開催され、白峰森林事務所では、地域振興への寄与のため、環境省自然保護官事務所と合同で参加しています。祭り中は、白峰が幻想的な雪景色に包まれ、多くの観光客で賑わいます。白峰で単身生活しているので、待っていても何も情報は入ってきません。自分から積極的に動いて、地域の仕事仲間や住民と気軽に情報交換できる関係をつくるようにしています。これからも国有林が地域に貢献できるよう、本署とのパイプ役として現場業務に取り組みたいと思います。



白山



ゆきだるま祭り